

奄美群島国立公園

琉球諸島の一部である奄美群島にまたがる奄美群島国立公園は 2017 年に設立されました。琉球諸島は過去 1000 万年にわたって日本およびユーラシア大陸と陸続きになったり離れたりを繰り返し、約 200 万年前に最終的に分離しました。

奄美群島には、サンゴ礁に囲まれた特徴的な海岸線、山地、亜熱帯性常緑広葉樹林、平地、奇岩といった様々な地形が見られます。奄美群島の各島は沖縄と九州両方の伝統から要素を取り入れた独自の文化を持っているものの、全ての島の文化は自然環境と密接に結びついた生活様式という共通点で繋がっています。

沖永良部島

サンゴ礁の島沖永良部島は全長約 20 キロメートルで、大山（246 メートル）を除いては真っ平らです。北側の海岸はサンゴでできた岩と崖が特徴的で、南側には砂浜があります。奄美の大きめの島々の文化と比べると、沖永良部島の文化にはより強い沖縄からの影響が見られます。島の経済の中心は農業で、主な作物はサツマイモ、サトウキビ、そして純白のエラブユリです。

潮吹き洞窟フーチャ

海水から隆起したサンゴ礁が強い波で浸食されてできたフーチャは、幅 30 メートルの潮吹き洞窟です。強い波が当たると、開口部からしぶきが高く吹き上がります。付近を泳ぐウミガメが見られることがあり、1 月から 3 月にかけてはザトウクジラが沖合で冬を過ごします。

昇竜洞

沖永良部島には旅行者が訪れることができる石灰岩洞窟がいくつかありますが、そのうち最も大きくまた最も行きやすいのは知名（ちな）町から車で 10 分ほどのところにある昇竜洞です。3500 メートルにわたって鍾乳石が連なる洞窟は、日本でも有数の見事な石灰岩洞窟とされています。沖永良部島の暑い夏の間でも、洞窟は心地よい涼しさを保っています。

田皆岬

地元の人が田皆岬と呼ぶ、沖永良部島の北西端にあるこの高さ 40 メートルの崖はサンゴ礁の隆起によって形成されました。断崖からは眼下の岩に波が打ち寄せる眺めをはっきりと見ることができ、崖は青々と茂る草原に囲まれています。一本の灯台だけがこの場所で唯一人間の存在を思い出させます。田皆岬は東シナ海に沈む夕日を眺めるのにもぴったりのスポットです。